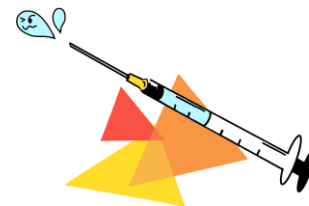


武蔵野市 新型コロナウイルスワクチン 小児接種実施計画



(第1版 令和4年3月4日)

※本資料は現時点での計画内容であり、

今後、国の通知やワクチンの供給量等により内容を変更する場合があります。

武蔵野市



1 基本的な考え方

5歳から11歳の方も、新型コロナワクチンの接種対象となったが、12歳以上の方と異なり、5歳から11歳の方の接種については努力義務とはなっていない。そのため、子どもへのワクチン接種のメリット（発症予防等）とデメリット（副反応等）を本人と保護者が十分理解し、ワクチンを接種するか、お子様と一緒に検討していただけるよう、国が示すワクチン接種の効果や副反応に関する情報を適切に提供していく。

※国が示すワクチン接種のメリット・デメリットについては12・13頁を参照

接種体制構築にあたっての武蔵野市の方針

新型コロナウイルス感染症に係るワクチンの接種について、予防接種法の特例臨時接種として、厚生労働大臣の指示のもと、東京都や医療関係団体と連携し、接種を希望する子どもにも安全で確実な接種を行う体制を整える。

2 武蔵野市のワクチン接種の特徴

- ① 武蔵野市医師会と連携し、小児科を中心とした身近な医療機関での個別接種を実施するとともに、集団接種もあわせて実施
- ② 安心して接種できるよう、市と武蔵野市医師会は、接種後のアナフィラキシーなどの急を要する副反応が発生した場合の救急受け入れについて、武蔵野赤十字病院と協定を締結
- ③ 集団接種会場には、常時小児科医を配置
- ④ 適正な間隔で確実に2回の接種ができるよう、1回目と2回目分のセットでの予約受付を実施
- ⑤ 重症化リスクの高い基礎疾患を有する方への優先予約を実施

3 ワクチン供給について

(1) 使用するワクチン種類について

小児用ファイザー社ワクチン（mRNAワクチン）を使用。0.2mlを接種する。

※12歳以上用ファイザー社ワクチンと比べ、有効成分は3分の1である。

(2) 小児接種に使用するワクチンの供給量について

(単位:回)

	供給時期	供給量		
第1クール	3月2日	1,000回分	500人分	13,400回分 (6,700人分)
第2クール	3月11日	2,300回分	1,150人分	
第3クール	4月4日~17日	5,100回分	2,550人分	
第4クール	4月18日~5月1日	5,000回分	2,500人分	

※第5クール以降については、現時点で未定

4 想定する接種数

(1) 接種対象者

1回目接種時点で5歳から11歳の市民

※原則、接種を受ける日に住民基本台帳に記録されている者。ただし、戸籍又は住民票に記載のない者、その他の住民基本台帳に記録されていないやむを得ない事情があると市長が認める者についても、居住の実態がある場合は、接種を実施することができる。

(2) 接種間隔、回数

3週間以上の間隔をおいて2回接種 ※3週間を過ぎる場合は、できるだけ速やかに接種することを推奨

(3) 対象者数、想定接種見込み数

対象者数

約9,300人 ※令和4年3月1日時点で5～11歳の方及び令和4年9月30日までに新たに5歳となる方を対象者として想定

想定接種見込み数

接種率：60%

接種見込み数：11,160回（2回接種分）

5 接種スケジュール

(令和4年3月4日時点)

早期に接種を希望する方や重症化リスクの高い基礎疾患を有する方に、確実に情報を提供し、接種を希望する方が安心して接種していただけるよう、接種券は一斉発送とする。

令和4年2月25日(金)	接種券発送 ※12歳以上の方と区別するため、オレンジ色の予診票を同封
3月4日(金)	集団接種予約開始
3月8日(火)	個別接種予約開始
3月11日(金)	接種開始

※接種券発送時期以降に5歳になる方には、誕生月の前月末に接種券を発送
※個別接種の接種開始時期は医療機関によって異なる

<参考:手引き(7版)より引用>

新たに5歳となる者については、接種対象年齢になる前に誤って接種が行われることがないように、例えば誕生月ごとなど自治体の発送頻度に沿った発送を行うこと。

また、5～11歳用ファイザー社ワクチンは12歳以上用ファイザー社ワクチンと別製剤であり用法・用量等が異なるため、本人及び保護者の混乱を避ける観点から、1回目接種の時点で11歳の者については、可能な限り12歳に到達する前に2回目接種を完了するよう、余裕を持って接種券等を送付することが望ましい。

6 接種体制

(1) 個別接種

★かかりつけ医などを中心に身近で安心な医療機関などで接種

令和4年3月11日から市内の小児科等、約10医療機関で接種を開始。
以降、順次約20医療機関に拡充していく。

(2) 集団接種

★安全かつ確実な接種のため、会場に小児科医を配置
★1回目と2回目のセット予約

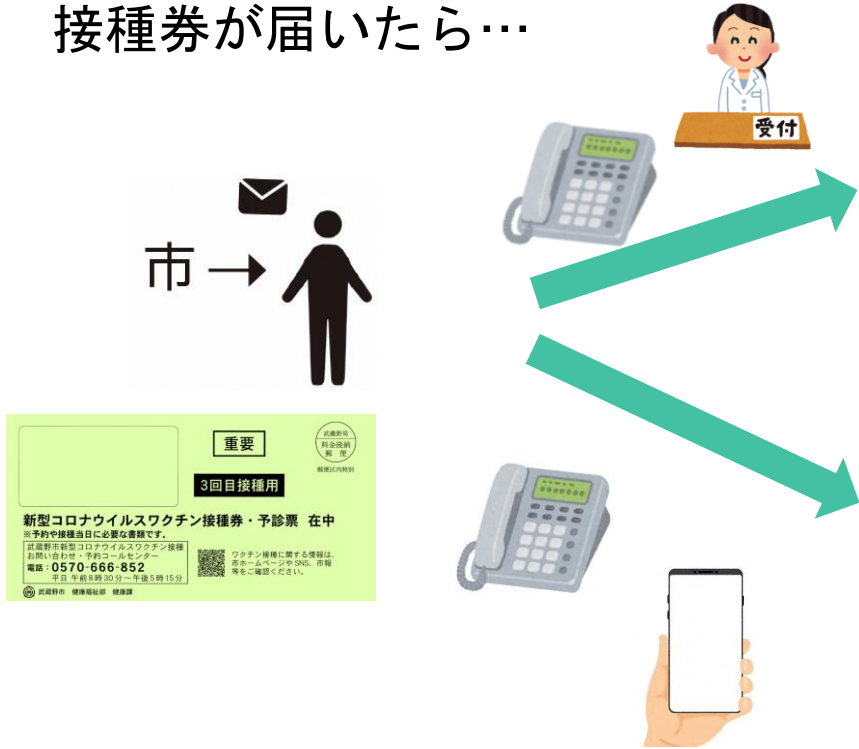
◎3月から4月の接種体制

	会場	開始時期	1回目接種日	接種時間	接種人数/日
3月	むさしの エコreゾート	3月11日	3月11日(金) 3月12日(土) 3月26日(土)	10時～17時30分 ※11日のみ14時30分～17時30分	300人
4月			4月21日	週4日 (木・金・土・日)	10時～17時30分

※ワクチンの供給状況や予約状況等により、接種日時、接種人数/日は変更する可能性あり

7 予約方法

接種券が届いたら…



【個別接種】 ※予約方法は各医療機関で異なる

市インター ネット予約	24時間いつでも予約可能 ※メンテナンスにより使用できない期間あり
電話・窓口等	各医療機関の電話、窓口受付、医療機関の独自システムで直接予約

【集団接種】

市インター ネット予約	24時間いつでも予約可能 ※メンテナンスにより使用できない期間あり
市コールセ ンター	電話で直接話しながら安心して予約可能 ※令和4年4月から土・日・祝日も対応

◎基礎疾患をお持ちの方への優先予約について（接種にあたっては必ず事前にかかりつけ医に相談）
重症化リスクの高い基礎疾患を有する方が、優先して予約することができるよう、集団接種予約の際に優先枠を設ける。また、一般の予約開始時間前に先行して予約を受け付ける。

8 副反応等

副反応等

(1) 国が示す接種後の副反応について

- ワクチン接種後の症状は、12歳以上の方と同様、接種部位の痛みや倦怠感、頭痛、発熱など、さまざまな症状が確認されていますが、そのほとんどが軽度または中等度で回復しており、現時点で得られている情報からは、安全性に重大な懸念は認められていないと判断されている。（詳細は13頁を参照）

(2) 副反応への対応

- 接種を実施する医療機関（集団接種会場含む）において、重篤な副反応が発生した際は、接種医又は関係医療機関が初期対応を行う。その際、必要となる医療機器等は、各医療機関にて事前に準備する。
- 救急搬送を必要とする際は、協定に基づき、武蔵野赤十字病院に受入れを依頼する。
- 接種後、医療機関外において発熱や腫れ等の症状が発生した場合は、まずはかかりつけ医等を受診するよう案内する。
- 東京都新型コロナワクチン副反応相談センター 電話番号 03-6258-5802（全日24時間対応）

(3) 健康被害救済

- 健康被害が予防接種によるものであると厚生労働大臣が認定したときは、予防接種法に基づく救済（医療費・障害年金等の給付）が受けられる。

9 接種体制の検討・準備

武蔵野市新型コロナウイルスワクチン接種推進本部の設置

ワクチン接種の円滑な実施を推進するため、令和3年1月7日付けで市長を本部長とする「武蔵野市新型コロナウイルスワクチン接種推進本部」を設置し、全庁横断的な体制を構築。計43回開催（3/4現在）。

関係団体との連携

- ・ 令和4年3月1日に市と武蔵野市医師会は、接種後のアナフィラキシーなどの急を要する副反応が発生した場合の救急受け入れについて、武蔵野赤十字病院と協定を締結。
- ・ 武蔵野赤十字病院の協力を得て、個別接種に係る説明会（3/3）を実施。

集団接種会場運営訓練による安全かつ確実な体制の構築

令和4年3月10日に集団接種会場運営訓練を実施予定。

10 相談・広報体制

相談体制・問い合わせ先

- 武蔵野市新型コロナウイルスワクチン接種コールセンター
電話番号：0570-666-852（平日8時30分～17時15分 ※4月以降、土・日・祝日も開設）
- 厚生労働省新型コロナウイルスワクチンコールセンター
電話番号：0120-761-770（全日9時～21時）

市民への情報提供

- 武蔵野市新型コロナウイルスワクチン公式Twitter (@musashino_vac)
- 武蔵野市新型コロナウイルスワクチン公式TikTok (@musashino_vac)
- 市報むさしの
- 武蔵野市公式ホームページ
- 武蔵野市公式SNS（Facebook、Twitter、LINE）
- むさしのFM「マイシティむさしの」
- ケーブルテレビ「むさしのシティニュース」
- 季刊むさしの 他、掲示・配布など

国が示すワクチン接種の必要性・効果・副反応について

～厚生労働省 新型コロナワクチンQ&Aより抜粋～

1. ワクチン接種の必要性

令和4年2月現在、国内における小児（5～11歳）の新型コロナウイルス感染症は、中等症や重症例の割合は少ないものの、オミクロン株の流行に伴い新規感染者が増加する中で、重症に至る症例数が増加傾向にあること、感染者全体に占める小児の割合が増えていることが報告されています。

また、基礎疾患がある小児では、新型コロナウイルスに感染することで重症化するリスクが高くなると言われています。

今後、様々な変異株が流行することも想定されること、現時点において、特に重症化リスクの高い基礎疾患を有する5～11歳の小児に対して接種の機会を提供することが望ましいと考えられることから、厚生労働省の審議会で議論された結果、予防接種法に基づく接種に位置づけ、小児を対象にワクチン接種を進めることとされました。

2. ワクチン接種の効果

米国での臨床試験の結果によると、ファイザー社のワクチンは、5～11歳の小児においても、16～25歳と同程度に抗体価が上昇し、有効性が評価できるとされています。また、2回目接種後7日以降の発症予防効果を確認したところ、90.7%であったことが報告されています。

これらのデータはオミクロン株が流行する前のものであり、小児における、オミクロン株に対するエビデンスは必ずしも十分ではありませんが、新たな知見が得られ次第、速やかにお知らせします。

国が示すワクチン接種の必要性・効果・副反応について

～厚生労働省 新型コロナワクチンQ&Aより抜粋～

3. ワクチン接種の副反応

ファイザー社のワクチンは、5～11歳の接種においても、12歳以上の方と同様、接種部位の痛みや倦怠感、頭痛、発熱等、様々な症状が臨床試験で確認されていますが、殆ど軽度又は中等度であり、回復していること、現時点で得られている情報からは、安全性に重大な懸念は認められていないと判断されています。また、1回目接種時、2回目接種時いずれも、症状がみられたのは、局所反応が接種後1～2日、持続期間（中央値）は1～2日であり、全身反応が接種後2～4日、持続期間（中央値）は1～2日と報告されています。

発現割合	症状
50%以上	接種部位の痛み、疲労
10～50%	頭痛、注射した部位の発赤や腫れ、筋肉痛、悪寒
1～10%	下痢、発熱、関節痛、嘔吐

臨床試験では、12歳以上と同様、2回目接種時の方が1回目接種時より発現頻度が高かった症状も多く、また、接種後1か月間では、頻度は低いものの、リンパ節症（リンパ節の腫れや痛み等）も報告（0.9%）されています。ただし、リンパ節症については、12歳以上においても発現している症状であること、例えばファイザー社の追加接種に係る臨床試験においても、ほとんどが軽症であり、発現後短期間で症状が治まっていることが確認されています。